

平成九年歌会始御製御歌及び詠進歌

姿

御製

うち続く田は豊かなる緑にて実る稲穂の姿うれしき

皇后陛下御歌

生命^{いのち}おび真闇^{まやみ}に浮きて青かりしと地球の姿見し人還^{かへ}る

皇太子殿下

人みなは姿ちがへどひたごころ戦^{いくさ}なき世をこひねがふなり

皇太子妃殿下

大地震^{おほなみ}のかなしみ耐へて立ちなほりはげむ人らの姿あかるし

文仁親王殿下

旅先に出迎へくるる園児達吾子の姿と重なり映る

文仁親王妃紀子殿下

染織にひたすら励む首里びとの姿かがやく夏の木かげに

清子内親王殿下

御蔵島とほざかりきて棧橋に送りゐし子らの姿^た顕ちくる

正仁親王殿下

空晴れてくるつぐみの声たからかにさへづる姿近ぢか^と見ゆ

正仁親王妃華子殿下

初まうでの晴れ着の姿乙女らは春の巷を華やぎてゆく

宣仁親王妃喜久子殿下

ゆきまして十年ととせに近きあけくれにたゞ偲ととせばるゝ君のみ姿

崇仁親王殿下

ちはやふる神の御前に茶を点たつるうまごの姿あやにかなしも

崇仁親王妃百合子殿下

滑り来る吾子の姿をうつさむと松尾根の雪踏みしめて立つ

寛仁親王妃信子殿下

祈りにも似る心地して白雪はくせつの富士の姿を仰ぎみる朝

憲仁親王殿下

両翼りやうよくに海風あまつかみ天あまかけるをじろわしの姿大空に映ゆ

憲仁親王妃久子殿下

祭日の衣着きぬかざりて馬の背に眠りある子の姿かはゆし

召人 齋藤 史

野の中にすがたゆたけき一樹あり風も月日も枝に抱きて

選者 千代國一

興亡の幾代をいまに城の垣石のいのちの姿しづまる

選者 田谷 鋭

おん母の半纏姿おもはるるか細く坐ましき魚うをあきなひて

選者 武川忠一

透きとほり姿なきもの呼びとめてこの高はらに穂すすき揺るる

選者 岡野弘彦

たましひの満ちて姿の冴ゆるまで盆の踊りの夜ふけにけり

選者 岡井 隆

激浪のやうな思考もひと夜経てしづまりゆきぬ姿なきまで

選 歌 (詠進者生年月日順)

ブラジル国
サンパウロ州
中村教二

筑波嶺に姿の似たる山近く異境の土を耕して生く

アメリカ合衆国
カリフォルニア州
山下日米親

新銀河百四十億光年のかなたに姿見し記事を読む

高知県 小谷貞広

霧深し児らの姿をたしかめて朝の渡しのともしつなを解く

滋賀県 須田みつ子

農道のはたての空に伊吹嶺の姿おほらかに今朝は雪積む

東京都 西市郎
今朝配る荷物の一つ虫籠に姿の見えぬ鈴虫が鳴く

大阪府 佐原 博
荷姿を確め終へし出庫車のヘッドライトに雪降りしきる

福岡県 大津留敬
あかときのひかりのなかに髪を梳く白寿の母の姿しづけし

新潟県 青木 優
みの虫のみの負ひて這ふその姿このおもしろき世に生かされて

徳島県 下町義克
つるはしを担ぐ姿の慰霊の碑水噴き上ぐるダムに真向かふ

福島県 宮崎英幸
妻の姿見えざるままに妻の声頼りに吾はシャツターを切る

佳 作 (詠進者生年月日順)

宮崎県 渡邊綱男
一の射手は鎌倉武者の姿して流鏑馬やぶさめの馬場にすすみ出でたり

ブラジル国 清水さかえ
サンパウロ州
制服の姿稚なき一年生祖母われの手に生ひ立ちしなり

静岡県 三枝理作
縄文の人らの姿まざまざと土器に真向かふときに顕たちくる

長崎県 秋山 毅
ことし蕁の青き注連縄匂ひつつ春の姿に家あらたまる

志賀の海阿曇の荒男禊ぎして袴姿に歩射ぶしやの弓ひく

福岡県 小森俊一

食器返すと床を這ひゆく子の姿耐へて生きよとただ見つめをり

東京都 稲葉健二

老いし母若き日の母時どきに姿変へつつ我が胸に生く

岡山県 横山逸美

職継ぎて棟に立ちたる子の姿手をふる我等に応へ餅撒く

福岡県 新藤重夫

姿なき0一五七に脅えきてやうやく風は涼しくなりぬ

山形県 名和利子

歩みゆくわれの姿勢をうしろより声に正して妻の従つきくる

福岡県 梶野寿人

青色のジャンパー姿見付けたり混み合ふ駅に夫待ちくるる

岐阜県 岩手康子

浜風に髪なびかせて自転車の君の姿が虹の輪に入る

愛知県 小松原康生

やうやくに癒えたる夫か荷を運ぶ姿見守る朝市のなか

三重県 中西いつ子

わが姿夕焼け雲と重なりて植ゑなほしゆく田の面に映る

長野県 伊藤正子

母の日も母の姿は常のごと茄子畑の草這ふやうに引く

福島県 今野金哉

君が音ミニディスクより流れ出づピアノに向かふ姿俣ばゆ

大阪府 藪本千恵